

スビルスキ・クォーツァイト

採石処理

「スビルスキ・クォーツァイト」株式会社
赤い斑岩採石処理会社



赤い斑岩の独特な特徴:
- 豊かな利用方法を提供する高級な消費者特性と装飾性；
- 高い強度と耐火性；
- 過酷な環境に強い；
- 酸・アルカリの影響を受けても強度が下がらない；
- 自然放射線をほぼ発生しない。

採石場の特性:
- 総合確定埋蔵量　2千万m^3以上；
- 生産能力　1十万m^3/年 。

現在の工場の製品:
- 厚さ2～6cmの多角形板；
- 厚さ6+cm以上の多角形板；
- 割肌切削敷石。

在庫量
加工されていない自然石の板　5万m^3以上。板のサイズ：
- 厚み　20～200mm；
- 巾　20～500mm；
- 長さ　20～1500mm。

「スビルスキ・クォーツァイト」社との協力利点：
- 開発されている鉱床では類似の石ではなくて、赤い斑岩が採掘されている；
- 鉄道・水運での輸送を可能とする独特な物流；
- 定期的な納入を保障できる在庫量；
- 近代的な設備が装備されている能力の高い生産所；
- 有利な協力条件；
- 材料と我社生産品のお手ごろな価格；
- 赤い斑岩製品の受注生産。

御社との長期的な協力をお楽しみにしています。採掘許可証明書等をご依頼により提供します。

自然な赤い斑岩の厚さ2+㎝以上の多角形板

利用方法：

- テラスの敷き詰め；
- アクセスランプの敷き詰め；
- 歩行者用道路の敷き詰め；
- 石垣・石壁の建設；
- 垣・壁・アーチ等の石張り；
- 建物とその部分の石張り；
- 造園設計での飾り物。

凸凹した塗装されていない自然な形をした石の各板は独特な外観を持つため、立派で特殊な模様を作り出せる。

板の自然な形は変形がある。板の厚さの許容差は±7㎜以内に変わる。自然な細かい段差や波の様な凸凹があり。板厚と種類（平/波状）による分類され、手で包装せれる。

赤い斑岩は環境の影響に強いため、室内外で利用できる。



自然な赤い斑岩の割肌切削敷石

赤い斑岩は自然性、強度、高い特質保持を誇る。赤い斑岩は様々な気候にも、産業的な影響にも強い。利用期限は無期限で、整備は最低の費用と時間がかかる。

住宅建築での利用：
- オープンスペースや道路の敷き詰め；
- 駐車場への乗り入れ通路や駐車場の敷き詰め；
- 部屋の飾り；
- 造園設計用の飾り物。

営業用建築での利用：
- 広場、河岸、海岸、歩行者専用道路の敷き詰め；
- 美術館、博物館、劇場、教会等の重要な建築物前の広場や市場の敷き詰め；
- 駐車場やバス停等の敷き詰め；
- 公園等の飾り物等。



赤い斑岩の長所：

- 自然性。赤い斑岩は完全に安全であるため、自宅・公共建築物の部屋の中でもの石張りや飾りとして使える；
- 耐久性。赤い斑岩は取扱中で歪んだり、腐食したり、分解したり、亀裂したりしないし、使用期間に連れたて外観の魅力が落ちない；
- 強度。赤い斑岩の敷き詰め等は高い信頼性を表す。機械的影響、磨耗、振動、暑寒、急激な温度変化、直射日光、酸・アルカリ影響に強い；
- 低い吸湿性。赤い斑岩は水、ガソリンや他の液体を吸湿しない；
- 実用性。赤い斑岩の整備はお金も時間もほぼかからない。地下工事が必要になった場合、石畳を全部か一部を解体して、工事の後で改めて敷き詰められる；
- 美的。綺麗な外観のおかげで様々なデザインで利用できる；
- 他の材料とよく組み合わせる。赤い斑岩は木材、緑、金属、ガラス等と組み合わせる。



赤い斑岩の利用範囲

建築用材：
• 部屋の内外化粧仕上げ（壁、床、天井、天板、階段、窓台等)；
• 壮大な建築物の建築用材；
• ハードスケープの構造物；
• 造園工事；
• 住宅回りや公共領域の快適環境作り；
• 断熱材の製造；
• 耐火コンクリートの製造；
• 空港の滑走路建設用の材料。

金属工業、化成工業、石油化学工業：
• ダイナスの生産；
• 融剤の生産；
• フェロアロイの生産；
• 石臼としての利用；
• 耐酸材としての利用；
• 誘導加熱溶解装置用の内張りの為の耐火材としての利用。

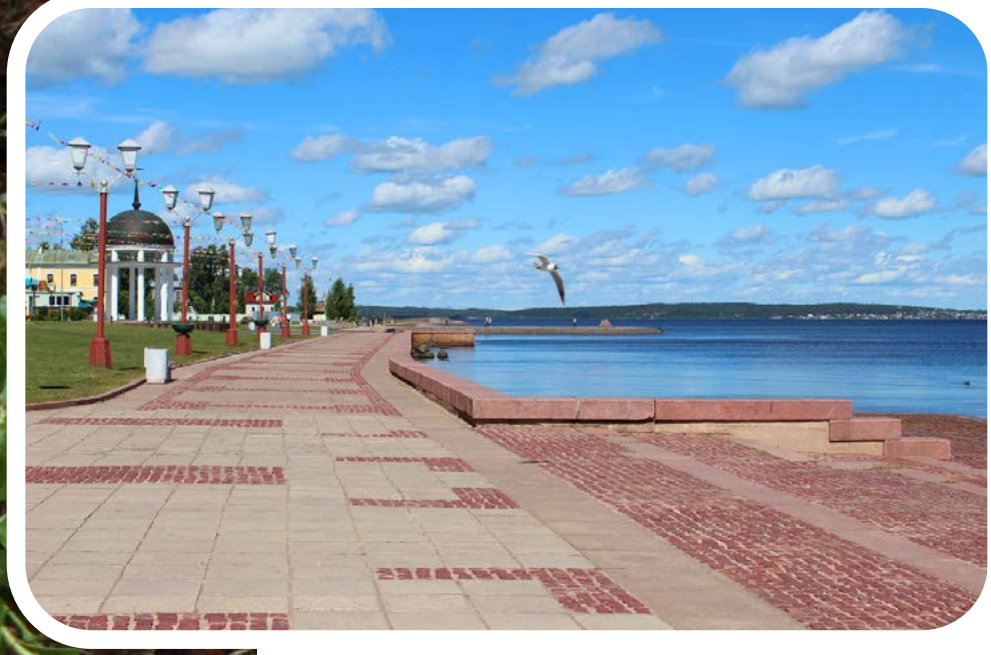
塗料工業：
• 耐火塗料の生産で使用。

食品工業：
• 水処理用ろ過機のろ過材。

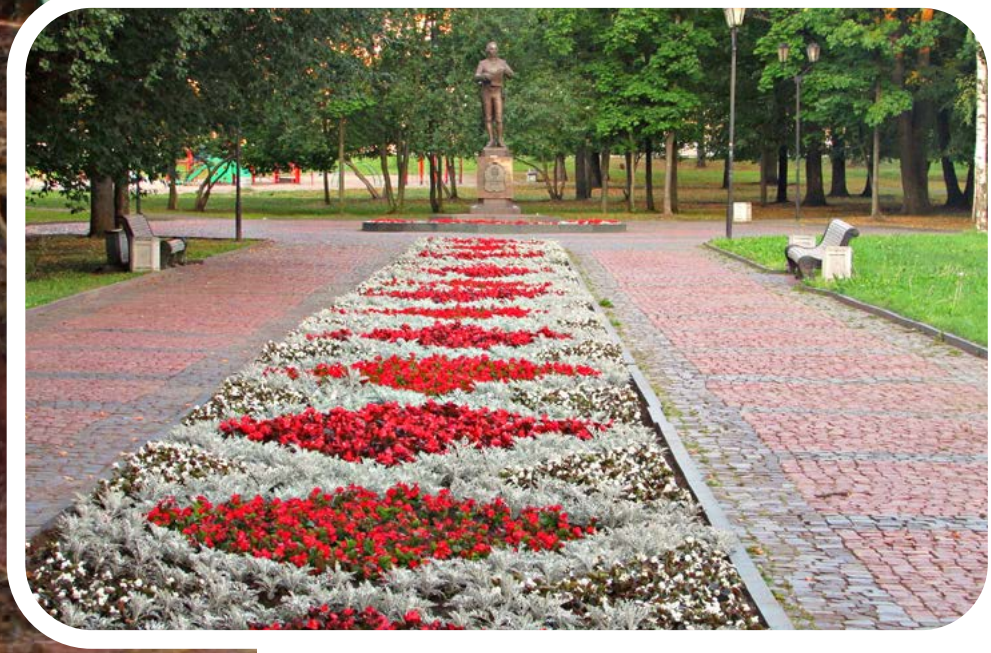
砥粒加工：
• 仕上砥石の製造材料として利用されている。



赤い斑岩の敷石は優れた使用特性と魅力的な外観を有する。この独特な材料は普通の石材と半貴石の間の特別な位置をする。赤い斑岩の消費者特性と装飾性は花崗岩、花崗片麻岩、閃緑岩、斑れい岩、ラブラドライトのそれよりずっと高い。



石畳が敷き詰められたオネジュスカヤ河岸
（1981年）、ペトロザヴォーツク



グベルナトルスキ公園の通路と広場の敷き詰め
（1981年）、ペトロザヴォーツク



グベルナトルスキ公園の赤い斑岩の石畳
（1981年）、ペトロザヴォーツク

赤い斑岩の質量放射能測定

質量放射能 A＝71±19Bq/kg。

まとめ：赤い斑岩を放射関係の制限なしで住宅・公共建築物の建設・改築で利用できる。

赤い斑岩の化学構造

SiO_2	94.54% (98% 未満)
Al_2O_3	2.913%
TiO_2	0.0616%
Fe_2O_3	0.866%
MnO	<0.01%
MgO	<0.1%
CaO	0.0124%
Na_2O	0.248%
K_2O	0.744%
P_2O_5	<0.05%
加熱質量減少	0.729%
合計	100%
V	<0.005%
Ba	0.0254%

物理的・機械的な特質
（砕石粒径は5〜20㎜と20〜40㎜）

破砕性による種類	1200〜1400
耐摩耗性による種類	И１(質量減少率25%以下)
円板状と棒状の粒の含有率	7〜15%
軟岩の含有率	1〜3%
埃と粘土の粒の含有率	0.1〜0.4%
平均密度	2.55〜2.62ｇ/㎤
水分の吸収率	0.3%
耐寒性	F400
耐火性	1700°C
水飽和状態での圧縮強度kgf/cm²（平均）	1690
乾いた状態での圧縮強度kgf/cm²（平均）	1850

まとめ：赤い斑岩は道路工事や他の建設工事の材料として利用できる。



歴史情報

赤い斑岩と言うミネラルはロシアで発見された。冷静な威儀、落ちない研磨と一様な紫色のおかげで「皇帝の石」とも呼ばれる。他にも見かける赤い斑岩の名称はショクシャの斑岩、ショクシャ、ショクシャの赤石、ショクシャ赤い斑岩、ショクシャ硅岩、Antique Red Porphyry。赤い斑岩の色と構成はエジプトの有名なPorfido Rosso Anticoと言う古代斑岩の魅力と装飾性に匹敵する。

現在、赤い斑岩の大量採掘は主にショクシャ層群の一部であるロブスコイエ鉱床で実施される。

この素晴らしい天然石の近代的な大量採掘を整理すれば、巨大な建築物や威儀なハードスケープの構造物のための大きいスレートの生産できるようになることを期待している。

この独特な石は18世紀にも御殿やモニュメントの飾り材料として使われた。19～20世紀にも、建物の威風や荘厳を強調する必要があった時、赤い斑岩の希石は利用された。赤い斑岩の主な利用用途は建築物やモニュメントの威風な飾り・仕上げ材料だった。その建物等は下記の世界中に有名なものを含む：

- カザン聖堂（1801～1811年建設、アンドレイ・ヴォロニーヒン設計）、サンクトペテルブルク；
- 聖イサアク大聖堂（1818～1858年建設、オーギュスト・ド・モンフェラン設計）、サンクトペテルブルク；
- 旧エルミタージュ（1771-1787年建設、ユーリ・フェルテン設計）、サンクトペテルブルク；
- N.M.ネリゴフスカヤの賃貸併用住宅（1910～1911年建設、セルゲイ・バランケエブ設計）、サンクトペテルブルク；
- チェシュメ柱（1776年建設、アントニオ・リナルディ設計）、プーシキン；
- ツァールスコエ・セロー道路のキロポスト（1772～1783年建設、アントニオ・リナルディ設計）、サンクトペテルブルク；
- M. V. ロモノーソフ・モスクワ国立総合大学の建物（1949～1953年建設、レフ・ルードネフ設計）、モスクワ；
- モスクワ地下鉄の出入口の建物；
- ヒルトンレニングラーツカヤホテル（1949～1954年建設、レオニド・ポリャコフとアレクサンドル・ボレツキ設計）、モスクワ；
- カレリア共和国政府の建物のポータル；
- レニン像の三段台座（1954年建設、アレクサンドル・ガゲロ設計）、カザン 。

赤い斑岩は飾りの材料の他、道路や広場の石畳材料としても利用される。例えば、モスクワのクレムリンの大統領のコートは赤い斑岩の敷石で敷き詰められた。赤い斑岩はヨーロッパの多国へ輸出される。フランスとイタリアのルネサンス時代の跡継ぎの素晴らしい建築物の材料になっている。



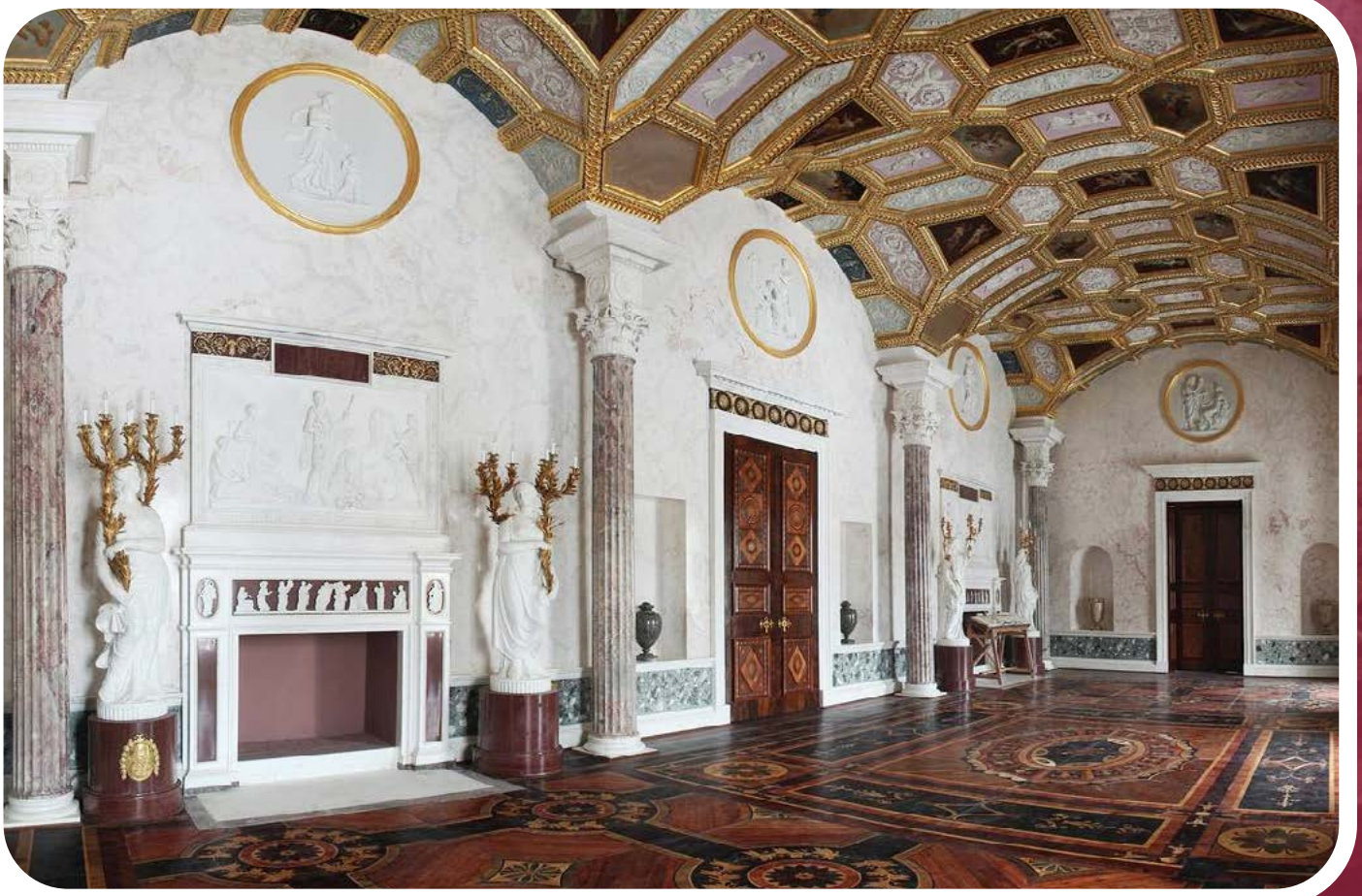
オテル・デ・ザンヴァリッドの
ドーム教会にあるナポレオンの棺
（1848年建設、ルイ・ヴィスコンティ設計）、パリ



ニコライ1世像の台座
（1857年建設、ペテル・フォン・クロッド彫刻）、サンクトペテルブルク

ミハイロフスキー城の南門の上のフリーズ
（1797〜1801年建設、ヴィンセンツォ・ブレンナとワシリー・バジェーノフ設計）、サンクトペテルブルク

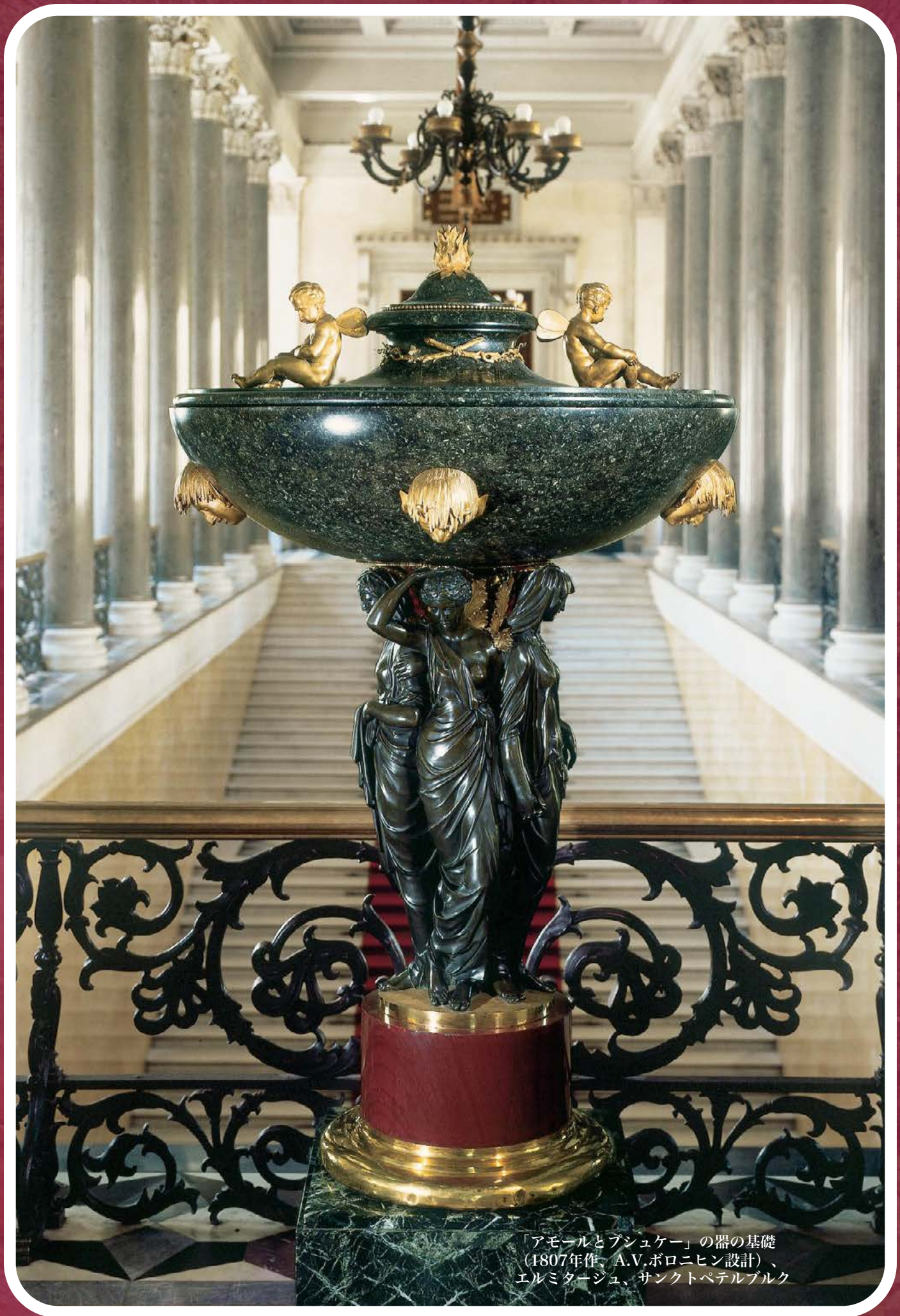




エカテリーナ宮殿の暖炉仕上げとウェスタの処女像の形をした室内灯の台座
（1779年作、チャールズ・キャメロン設計）、プーシキン

宝石箱（19世紀）、エルミタージュ、サンクトペテルブルク





「アモールとプシュケー」の器の基礎
（1807年作、A.V.ボロニヒン設計）、
エルミタージュ、サンクトペテルブルク



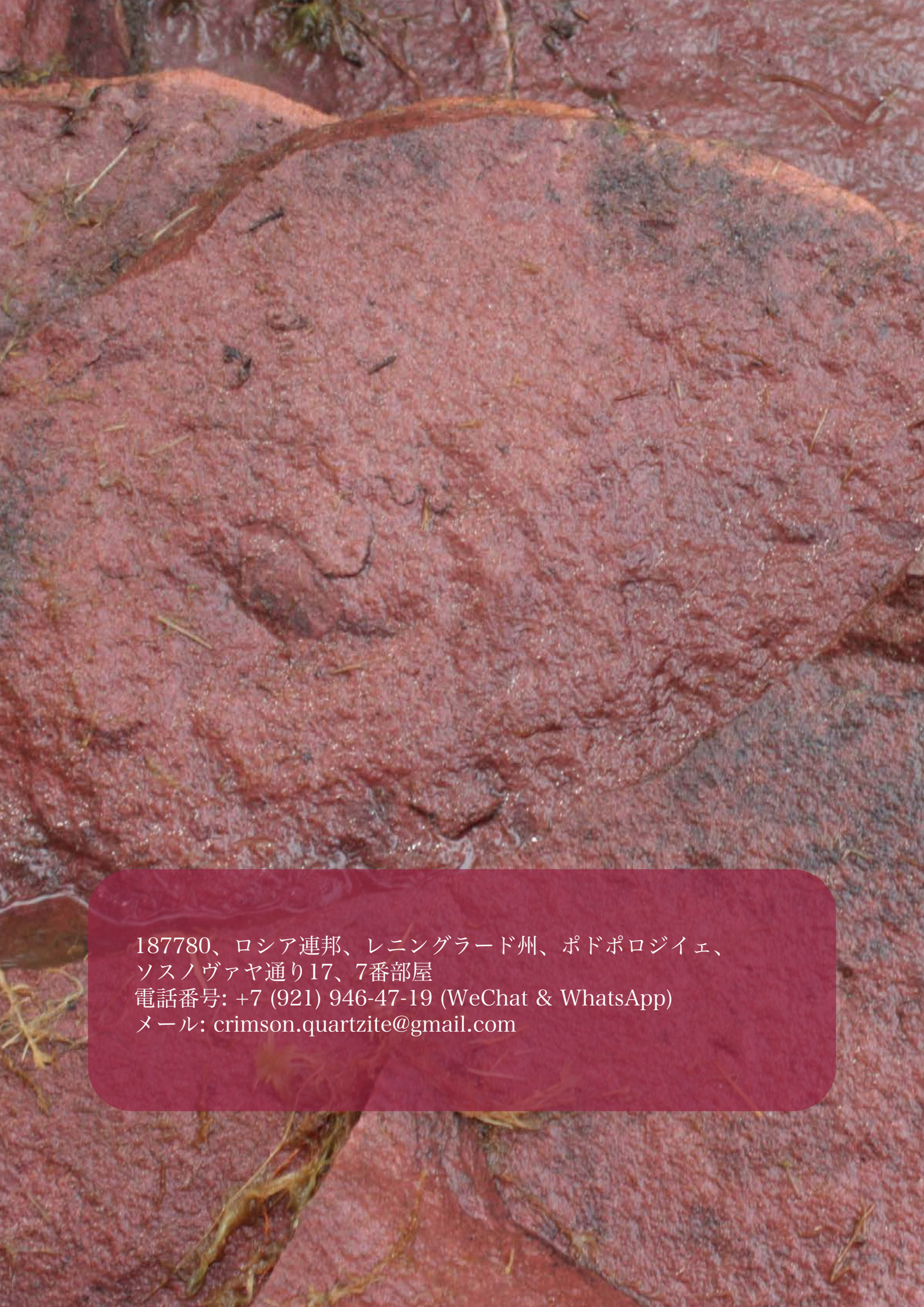
聖イサアク大聖堂での
オーギュスト・ド・モンフェラン建築家の胸像
（1850年作、アントン・ラォレッチ）、サンクトペテルブルク



マリインスキー宮殿の赤い部屋の仕上げ
（1839～1844年作、アンドレイ・シュタケンシュナイダー設計）、サンクトペテルブルク

レーニン廟の最上の段階と文字
（1929～1930年建設、アレクセイ・シューセフ設計）、モスクワ





187780、ロシア連邦、レニングラード州、ポドポロジイェ、
ソスノヴァヤ通り17、7番部屋
電話番号: +7 (921) 946-47-19 (WeChat & WhatsApp)
メール: crimson.quartzite@gmail.com